現代短歌大系 5

柴生田 稔
生方たつゑ
窪田章一郎

高柳誠・
大岡信・塚本邦雄・中井英夫

現代短歌大系 5

柴生田 稔
生方たつゑ
窪田章一郎

三一書房

現代短歌大系　第五巻　（全十二巻）

一九七三年八月三十一日　第一版第一刷発行

編者　大岡信
塚本邦雄
中井英夫
©一九七三年
発行者　竹村一

発行所　株式会社　三一書房
東京都千代田区神田駿河台二の九
電話〇三（二九一）三一三一番
振替東京　八四一六〇番

印刷所　第一印刷株式会社
製本所　株式会社鈴木製本所

0392-739805-2726

現代短歌大系
第5巻　目次

柴生田　稔――003
生方たつゑ――115
窪田章一郎――231
解説　上田三四二――355

編集協力　齋藤　愼爾
篠　弘
正津　勉
富士田元彦

装幀　澁川　育由

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

柴生田　稔

柴生田 稔 略歴

明治37年、三重県に生れる。大正15年、東京帝国大学文学部哲学科入学。昭和2年、国文科に転科。アララギに入会、齋藤茂吉に師事。同6年、明治大学予科講師。11年、谷井沢と結婚。16年、第一歌集『春山』刊。24年、明治大学文学部教授。26年、『齋藤茂吉全集』を編集。34年、『麥の庭』刊。40年、『入野』刊。同歌集で翌年、読売文学賞。現在、「短歌研究」に「齋藤茂吉研究」連載中。「アララギ」選者。

柴生田 稔 目次

麥の庭（完本）――007
柴生田 稔論 窪田般彌――099

麥の庭（完本）

目次

昭和十六年（一九四一年）
窓……〇一二
不調和……〇一三
推移……〇一三
月明……〇一四

昭和十七年（一九四二年）
眞珠灣……〇一五
身邊……〇一五
野の道……〇一六
秋ふかし……〇一七
ある時に……〇一八
湯崎白濱……〇一八

昭和十八年（一九四三年）
光と影……〇二〇
霞む日……〇二〇
みどりご……〇二二
アッツ島……〇二二
印南將校生徒を悲しむ……〇二三
夏過ぎゆく……〇二三
見在……〇二三

昭和二十年（一九四五年）
敗戰……〇二四
卵五つ……〇二五
緣の日ざし……〇二六

昭和二十一年（一九四六年）
麥秀……〇二六

昭和二十二年（一九四七年）
新しき世に……〇二九
畑中……〇三一

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

夢……〇三三
舊　友……〇三三
夕べの水……〇三三
ひとりしづか……〇三四

昭和二十三年（一九四八年）
わたくしごと……〇三八
夏時間……〇四〇
起　居……〇四〇

昭和二十四年（一九四九年）
元日の雨……〇四一
桑の實……〇四二
桔梗の畑……〇四三

昭和二十五年（一九五〇年）
林　檎……〇四五
病　床……〇四六
友正木篤三死す……〇四八
暮れゆく年……〇四八

昭和二十六年（一九五一年）
なほ病みて……〇四九
春　來……〇五〇
梅雨前後……〇五一
夏逝く……〇五三

昭和二十七年（一九五二年）
冬のすみれ……〇五五

昭和二十八年（一九五三年）
肖　像……〇五六
二月二十五日夜……〇五六
麥の季節……〇五七
雲……〇五八
追　懷……〇五九
信濃の國……〇五九
北上川……〇五九

今年の冬……〇六一

昭和二十九年（一九五四年）

一　夜……〇六一
F刑務所工場……〇六二
栗の苗木……〇六二
樋口夫人を悲しむ……〇六三
古峯ヶ原アララギ安居會……〇六三
草　野……〇六四
冬とアカンサス……〇六四

昭和三十年（一九五五年）

こだはり……〇六五
銀杏の下……〇六六
平　日……〇六七
瀬戸の島々……〇六八
あかつき……〇六八
砂　丘……〇六九
越後路……〇六九

新秋S荘……〇七〇

昭和三十一年（一九五六年）

某日某教會……〇七一
塔の夕日……〇七二
病む花……〇七二
經　過……〇七三
桐　畑……〇七三
秋……〇七四
高き窓……〇七五
年末まで……〇七五

昭和三十二年（一九五七年）

冬の泉……〇七六
暗き雪……〇八〇
夜　霧……〇八〇
閉鎖花……〇八二
丘……〇八二
部　屋……〇八四

浅　峡……〇八四
昭和三十三年（一九五八年）
たらの若木……〇八五
隨　縁……〇八六
人の世ごと……〇八六
山　形……〇八七
展　望……〇八九
窓　外……〇九〇
おもかげ……〇九〇
後　記……〇九二

昭和十六年（一九四一年）

窓

新しき授業終へ來てわが思ふ十年の月日はわれを慣れしめぬ
白墨によごれし袖をあはれがり巷行きにき若かりし日よ
人教ふるになべてふさはぬわが性を常おもひつつ過ぎし十年か
つねのごと冬靄こめし夕巷見おろして今日の雨戸をとざす
幼兒の風邪きづかひて戻り來るきさらぎの夕べいまだ明るし
菩提樹の綠かなしく日に透きて風邪いえそめし幼兒と居り
とけそめて笹にまじれる雪原はあらはなるまで晝の日させり
あかつきに額冷え來るもまれにして冬過ぎゆかむ今夜おもへば
待ち戀ひし春になりぬと日の當る窓に坐りてわがたどきなし

幾夜さを暁かけし仕事すめばまた二三日すぐにたちたり
くさめする聲の聞こえし幼兒は起き出でてわれの後に立てり

不調和

たくましく花芽もたぐる蘭見ればわがより行かむものにはあらず
あをあをと油ぎりたる蘭の葉に向ひてをればおさるるごとし
いらだち來てわれは思ふ太ぶとと花芽たつ蘭を賞づる體力
新しき機構に入りてより何か機械の狂ひしごとき日常の感じがいまだに去らず
あわただしく晝餉食ひつつ思ふこと今となり身をいたはらむことも難しも
不平言ひつつ人はよく働けりわが朝ゆくつとめにも晝ゆくつとめにも
交はりは水のごとしと言ふ言葉さびしき時に人言ひけむか

推移

この夏は君が葉書もなかりしと寂しきことをわが思ふかな

幼兒のごとく泣きゐし前の家の嫗死にをり今日聞きたれば
菩提樹の枝葉わかれて硬くなり去年のうひうひしきさまはかへらず
颱風圈の眞中のごとき靜けさを感じつつ今日も机に向ふ
海越えて歸り來し友ら言ふ言葉彼方の心すでに定れり
昨日聞きしありのままなるドイツのさま整理しがたく腦裡にあり

月明

幾夜さをわが窓のべに月照りて今は遙かになりゆきにけり
まどかにて東の窓に月照れば夜半に南の窓に移ろふ
梅の木の早き落葉はしづかにて屋根に敷く見ゆ月の下びに
くれなゐの月の上りし驚きをベルツは日記に書きとどめたり
をさなごの泣くさま見れば幼きより悲しみはあり來る日來る日に
灯のもとに紙縒いくつかよりてをり今夜思ほえず心しづけし

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com